

## 受講定員数について

### (1) 市町村職員が主な参加者で現場でのグループワーク実習を伴わないもの

(令和4年度林業アカデミーふくしま短期研修講座 No 1・2・3・4・6)

市町村林務行政職員のうち、業務の多忙さや諸事情により参加できない職員を想定し、概ね6～7割の職員を目標に設定。

- 1) 県内の林務担当市町村職員数は約145名(アンケート調査及び令和3年地方公共団体定員管理調査結果部門別職員数(総務省)より算出)、その概ね6～7割は94名(6.5割)。
- 2) 市町村職員の異動により4年程度で入れ替わると想定し、新たに配属される職員を対象とした定員は94名/4年=23名。
- 3) 研修のグループワークを5名×4班で行うことを想定し、20名の定員に設定。

### (2) (1) 以外の研修講座

本年度の受講定員及び受講実績をもとに、受講定員を決定

・「No5 森林経営管理制度の実務(林業事業体対象)」

→本年度実施した「森林経営管理制度の実務II」の定員を参考とし、定員20名。

・「No7 測量・森林調査の基礎」

→本年度実施した「森林土木事業の設計・施工管理(後期)」の定員を参考とし、定員12名。  
(グループワーク4人×3班を想定)

・「No8 提案型集約化施業実践」

→本年度実施した同研修の定員及び受講実績を参考とし、定員12名。(グループワーク6名×2班を想定)

・「No9 路網整備と作業システム(基礎)」

→本年度実施した同研修の定員及び受講実績を参考とし、定員20名。(グループワーク5名×4班を想定)

・「No10 路網整備と作業システム(実践)」

→本年度実施した同研修の定員及び受講実績を参考とし、定員10名。(グループワーク5名×2班を想定)

・「No11 森林林業でのドローン活用(基礎)」

→本年度実施した同研修の定員及び受講実績を参考とし、定員12名。

・「No12 最先端の林業技術」

→新たに追加する研修。実習ではパソコンを使用することが考えられることから、アカデミーで導入したパソコン15台を定員とし15名。

・「No13 安全な伐倒作業技術」

→新たに追加する研修。研修講師との調整により定員3名。

・「No14 高性能林業機械の操作」

→新たに追加する研修。ハーベスタシミュレータを使用しての操作実習が主な内容。シミュレータ1台を、午前及び午後の2部構成に分けて、3名が20分交代で2回実施できる計画とする。定員は6名。